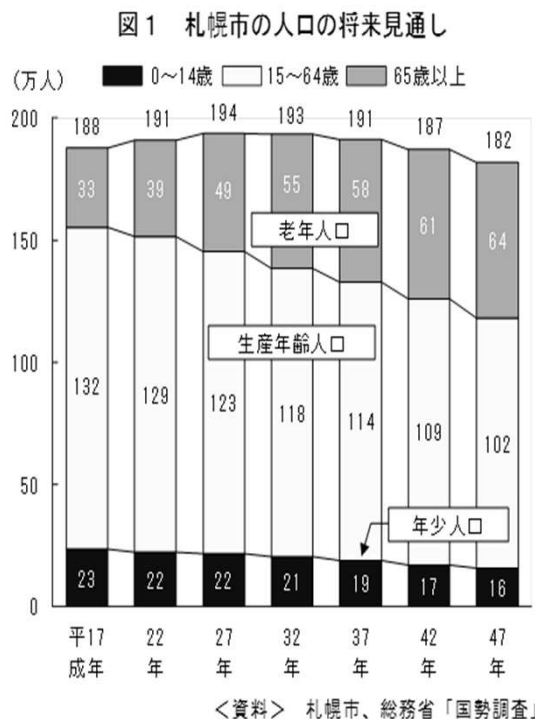


1. 札幌市まちづくり戦略ビジョン策定の趣旨



**将来の見通し**

- 札幌市の人口は少子高齢化の急速な進行に伴い、平成27年前後をピークに減少傾向へ
- 生産年齢人口、年少人口は減少局面に入る一方、老年人口は増加するなど人口構造が大きく変化

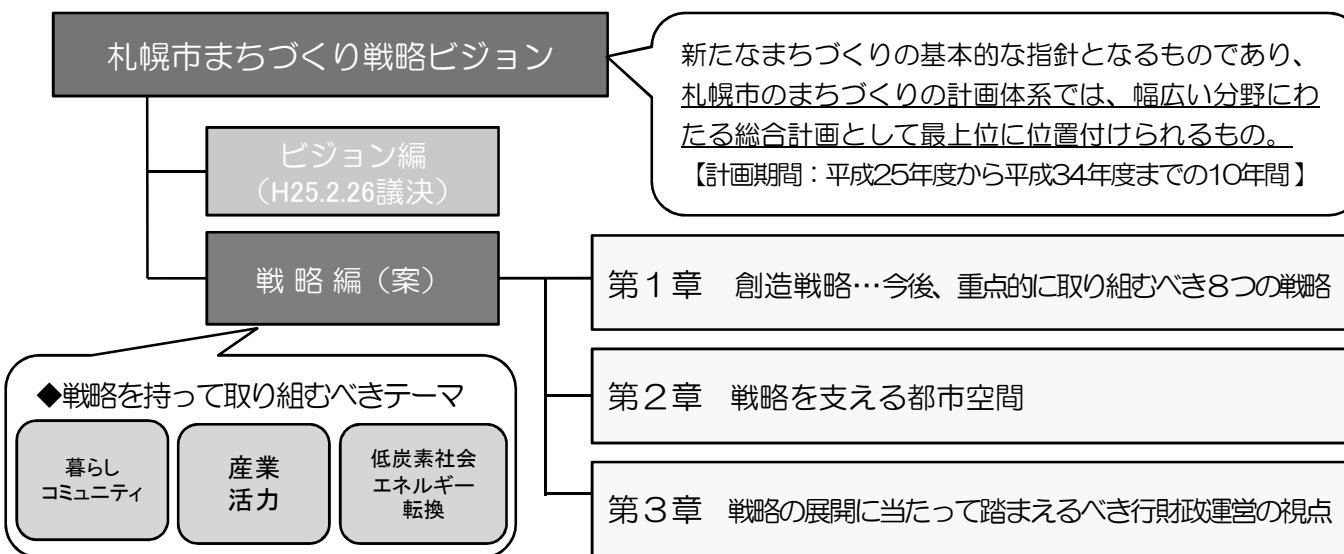
**新たな課題の発生**

- 人口減少や高齢化の進行に伴う地域課題の顕在化
- 生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小
- 原発事故を契機としたエネルギー政策の見直し

**戦略ビジョン策定の必要性**

上記のようなパラダイムの転換が求められる課題に対応するため、10年後の札幌市の姿を描き、今後、戦略を持って重点的に施策を展開していく必要がある。

2. 札幌市まちづくり戦略ビジョンの構成



3. 戦略編(案)第1章(創造戦略)における位置付け

第1節 暮らし・コミュニティ 創造戦略2 共生社会創造戦略 2-① 地域で共生する環境づくり

**○児童会館の活用推進** 参考資料2 P16参照

地域における多世代交流を促進するため、子どもと大人の交流の場として児童会館の更なる活用を推進します。

**○多様な活動主体による交流の場の拡充**

住民同士の交流を促進するため、学校や福祉施設など多様な社会資源を活用した多世代交流の場の創設や多様な活動主体による交流の場の拡充を図ります。

第1節 暮らし・コミュニティ 創造戦略2 共生社会創造戦略 2-③ 歩いて暮らせるまちづくり

**○地域の拠点の機能向上** 参考資料2 P21参照

周辺地域からアクセスしやすい地下鉄駅周辺などの地域の拠点としての利便性を高めるため、再開発などを通じて商業や医療などの都市機能や交流機能の集積を図るとともに、区役所などの公共施設の集約化を推進します。

**○公共施設の併設化などの検討**

公共施設の効率的な再配置を推進するため、学校、まちづくりセンター、児童会館など目的別に設置されている公共施設の併設化や機能統合等の検討を進めます。

第3節 低炭素社会・エネルギー転換 創造戦略7 低炭素都市創造戦略 7-① 持続可能な集約型の都市への再構築

**○地下鉄駅周辺などでの重点的な取組の推進** 参考資料2 P61参照

交通結節点での機能集積等による低炭素型の都市への再構築を図るため、新さっぽろ駅周辺、真駒内駅周辺、篠路駅周辺、苗穂駅周辺といった、地下鉄駅周辺などでの重点的な取組を推進します。また、地下鉄白石駅では、直結する区役所を中心とした街区の整備を進めます。

さらには、これら以外の地下鉄駅周辺等に、区役所など公共施設の重点的配置を進めるとともに、生活関連機能の導入などへの支援を行います。

4. 戦略編(案)第2章(戦略を支える都市空間)における位置付け

第3節 都市空間創造戦略 3 多様な交流を支える交流拠点

**○区役所等の拠点などへの配置** 参考資料2 P99参照

市民の生活利便性を向上していくため、今後の区役所の建て替えに当たっては、地域交流拠点や都心への配置を原則とし、地下鉄駅などとの接続による利便性の向上に努めます。

※地域交流拠点～交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域

第3節 都市空間創造戦略 5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

**○都市基盤の適切な再配置と活用** 参考資料2 P107参照

市有建築物の効果的・効率的な運用を図るため、人口動態や年齢構成の変化、市民ニーズ、維持管理費などを総合的に勘案しながら、機能の複合化や集約化、民間施設との連携といった手法による効果的かつ効率的な再配置などを進めるための基本方針を策定し、これに基づく取組を推進します。

特に、地域の一定の範囲に配置されている学校施設については、空き教室を活用した機能の複合化などにより、コミュニティ機能の集約化の検討を進めます。

5. 戦略編(案)第3章(戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点)における位置付け

5 市有財産の保全と活用

**○市有建築物の更新** 参考資料2 P114参照

少子高齢化に伴う市民ニーズの変化に応じた新たなまちづくりと、今後発生する市有建築物の大量更新の潜在的な需要を踏まえ、複合的利用や機能転換などを進めることで、総量を抑制しつつ、市民の利便性を高める工夫をしていきます。

また、既存の行政区域などにとらわれない効率的で利便性の高い施設配置の在り方についても検討を進めます。